

MASTER PLAN

札幌市下水道マスタープラン



—「次世代」を見据えて—

札幌市下水道局

札幌市下水道局「基本理念」と「経営指針」

下水道は、都市活動により発生する汚れた水を、環境が受入れられるまできれいにし戻すという重要な役割を受持っており、生態系や自然の環境システムを健全に保つための最後の砦ともいえます。

このような重要な使命を果たし続けるために、札幌市下水道局では、平成10年4月に『札幌市下水道局「基本理念」と「経営指針」』を定めました。

「基本理念」は、地球規模で広がる環境問題がクローズアップされている現在、水環境の保全や資産・資源の有効活用など、下水道が受持つ多様な役割を継続的に果たし続ける決意を表しています。

「経営指針」は、「下水道サービス」を提供する公営企業として「常に企業の経済性を発揮するとともに、その本来の目的である公共の福祉を増進するよう運営」し続ける決意を表しています。

基本理念

「次世代」を見据える

水循環において基礎的な役割を担う下水道は、地球規模での環境保全に対して積極的に貢献し、次世代に“快適な街”として誇れる財産を残す。

経営指針

下水道事業は公営企業として、経済性を発揮するとともに、公益性を増進するよう運営されなければならない。本市においては、高普及の達成に伴い、今後は機能の維持・拡充を通して地球環境への貢献をめざし、基本理念の実現に向けて、次の3つを指針として事業経営を推進する。

1「コスト意識」を磨く

職員の一人ひとりが明確なコスト意識を持ち、効率的な事業運営を追求する中で、最少の経費で最大の効果が得られるよう創意工夫を図り、職員一丸となって健全な事業運営に努める。

2「発想の転換」を図る

行政全般にわたり発想の転換が求められており、新しい時代に対応した事業展開を図るため、大胆で柔軟な発想を取り入れた中で将来の下水道事業を展望する。

3「市民の信頼」に応える

下水道サービスの対価として市民に応分の負担を求めていることを強く意識し、より一層の市民の理解・協力を得るために、下水道事業の必要性について効果的な広報を行うとともに、市民ニーズの的確な把握に努め、信頼に応える。



札幌市下水道局長
仁科 聡

下水道の役割

札幌市の下水道は、戦後の急激な人口増加に伴う環境整備や冬季オリンピックの開催を契機として短期間に集中して整備を進めてきた結果、平成13年度末の処理人口普及率が99.3%と、全国的にも高水準の普及状況となっています。

日々の市民生活を支える下水道は、生活環境の改善や公共用水域の水質保全、浸水防除のための雨水対策など重要な役割を果たしています。その一例としては、一時期汚濁が進行した市の中心部を流れる豊平川が下水道整備とともによみがえり、昭和54年にはサケが戻るまできれいになったことを挙げるすることができます。

しかし、下水道は一旦整備されると施設そのものが見えにくく、重要な社会資本の一つでありながら、その存在を意識されにくい施設であり、ほとんどの人が下水道サービスを受けることができるようになった現在、目の前から速やかに排除される下水の処理についても、普段あまり意識されていないように思います。

近年では、雪対策をはじめとして、下水道施設や処理水などの資産・資源の有効利用も新たな下水道の役割になっています。

下水道の役割は多様化するとともに一段と重要性を増しており、今後ますます増加する改築更新などの整備事業、一日も休むことのできない施設の維持管理、さらには適正な財政計画に基づく事業運営など、下水道事業の堅実な経営を将来にわたり継続していかなければなりません。



次世代を見据えて

本市を取巻く社会・経済情勢は、厳しさが続く地域経済や少子・高齢化の進行、環境保全の必要性の高まり、市民意識の多様化など、大きく変化してきており、地方分権の本格化に伴い、自主的・自立的な都市経営が求められています。

札幌市は、市民・企業・行政などの構成員全員が公共的な役割を担い合いながら都市を経営していく「協働型社会」の実現を目指しており、協働型社会の一構成員として自らの役割を果たすために改革を推進するとともに、自治・行政・公共サービスなどの今後のあり方について、改めて見直すことが必要となっています。

下水道局では、平成10年に「基本理念」と「経営指針」を定め、「下水道サービスを提供する企業」として市民に良質なサービスを提供することはもとより、経済性を発揮し公益性を増進するよう、事業経営に取り組んできています。

「基本理念」では「次世代を見据える」を掲げていますが、今後とも引き続き市民の信頼に応えるためには、計画的な整備事業、適正な維持管理や将来を見据えた財政運営の考え方を包括するマスタープランが不可欠であり、事業の継続性の観点からこのようなマスタープランに基づき下水道事業を推進していく必要があります。

新しい時代の下水道の実現に向けて

札幌市では、平成12年に概ね20年間を計画期間とする「第4次札幌市長期総合計画」を策定し札幌の魅力と活力を高めるため、豊かな自然と調和した都市環境の形成を目指す施策に取り組んでいます。

「札幌市下水道マスタープラン」は、「第4次札幌市長期総合計画」を踏まえ、連続したその延長線上にある将来に向けての長期指針を示すものであり、21世紀において札幌市の下水道が果たすべき役割の方向性を示す言わば「羅針盤」とも言えます。

新たな世紀である21世紀は「環境の世紀」や「水の世紀」ともいわれ、水環境・水循環を支える下水道の重要性は一段と高まっています。かけがえのない地球環境を保全し、良好な環境を維持していく一翼を担うため、このマスタープランに示すような新しい時代に対応した下水道の姿の実現に向けて、今後とも全力を尽くしていきたいと考えています。

平成15年3月



目次

第1部 マスタープランの概要

① 札幌市の下水道の現状	2
①札幌市の下水道のあゆみ	2
②現状の課題	2
② 21世紀における札幌市の下水道	4
③ マスタープランの目的・必要性	5
④ マスタープランの位置付け	6
⑤ マスタープランの基本的な考え方	8
①マスタープランの3つの区分	8
②マスタープランの3つの視点	9

第2部 整備マスタープラン

1 人の視点【住みやすい生活環境の創出】

① 衛生的で快適な生活の確保・維持	14
①処理人口普及率100%	14
②汚水処理	14
③下水道施設の改築・更新・再構築	15
② 暮らしの安全と安心の確保	
①雨水対策	16
②下水道光ファイバーネットワークの構築	17
③地震対策	17

2 水の視点【健全な水循環・清らかな水環境の創出】

① 健全な水循環・清らかな水環境の創出	18
①高度処理	18
②合流式下水道の改善	19

3 地球の視点【持続可能な都市の構築】

1 街のうるおいと活力の向上	20
①処理施設の上部利用	20
2 循環型社会の構築と環境負荷の低減	21
①汚泥の処理・処分	21
②汚泥の有効利用	22
③建設発生土の有効利用	22
④処理水の有効利用	23
⑤雪対策	23

第3部 管理マスタープラン

1 人の視点【住みやすい生活環境の創出】

1 衛生的で快適な生活の確保・維持	28
①計画的な維持管理	28
②市民との連携・情報公開	28
2 暮らしの安全と安心の確保	29
①防災体制・危機管理体制	29

2 水の視点【健全な水循環・清らかな水環境の創出】

1 健全な水循環・清らかな水環境の創出	30
①水処理の運転管理体制	30
②水系リスク管理	30

3 地球の視点【持続可能な都市の構築】

1 街のうるおいと活力の向上	32
①下水道施設等の有効活用	32
②下水道光ファイバーネットワークの活用	32
2 循環型社会の構築と環境負荷の低減	33
①処理水や汚泥等の有効利用	33
②省資源・省エネルギー	33

第4部 財政マスタープラン

1 経営管理の視点

1 健全な経営の堅持	38
①長期的視点に立った経営	38
②整備事業規模の適正化	39
③効率的な維持管理	39

2 資産の視点

1 資産の形成	40
①投資の適正化	40
2 資産の保全	40
①施設の延命化	40
3 資産の活用	41
①下水道資産の有効活用	41

3 財源の視点

1 適正な事業経営	42
①事業経営規模の適正化	42
2 財源の確保	42
①自主財源の確保	42
3 使用料制度の適正化	43
①原価配賦・使用料体系等の適正化	43

第5部 マスタープランに関する総括関連事項

1 協働型社会の構築	46
2 説明責任向上施策の推進	46
3 研修の推進(「人財」の育成)	46
4 技術開発の推進	47
5 IT(情報技術)の活用	47
6 環境負荷の低減を考慮した事業経営	47
7 下水道整備指標	48
8 国・北海道・その他関連機関との連携	49
9 国際協力への貢献	49